

シラバス詳細

タイトル「2024年度シラバス」、カテゴリ「経済経営学類」

科目情報

< 8 / 11件 >

科目名	上級日本語 3 A
講義名	上級日本語 3 A
クラス	
担当教員	井本 亮(e060@ipc.fukushima-u.ac.jp)
実務経験のある教員 による講義	
学年	1年、2年、3年、4年
キャンパス区分	金谷川キャンパス
開講学期	前期
開講時期	(前期)
曜日・時限	火 1
講義室	講義室未設定
科目種別	通常講義(学類)
ナンバリング	
科目区分	要卒外(システム用)
単位区分	

要卒外
単位数
1
準備事項
備考
特修プログラム
直接参照URL
https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047340156475&formatCD=1

授業方法
講義、演習、グループワーク、発表、ディスカッション、ICT機器の活用

講義情報

授業概要とねらい

- 〔概要〕
- この授業では日本語リテラシーのうち「書く」技術、特に、大学留学生として必要な「適切な文法・文体で書く」技術の向上をめざす。
- 〔ねらい〕
- 適切に書くためには、日本語が持つ文体的特徴と多様性に関する知識およびそれを駆使する文体技術を習得する必要がある。同時に、文法的知識に関する講義・練習を通して、文法的に正確な文章を書く、あるいは文章を修正する力を養う。並行して、ライティングにおける叙述モードを学び、書き分け方の実践練習および課題作文による執筆の実習を行う。
- 〔カリキュラムにおける当該科目の位置付け〕
- ・外国語リテラシー（幅広い教養 3－①）

・学問的思考の基礎（幅広い教養 2）

・多角的・総合的思考（幅広い教養 1）

・自己形成力／自己学習力（自己形成力1）

単位認定基準

- (1) 文法的に誤りのない文を作ることができること。文法的な誤りを発見できること。
- (2) レポート・論文に適当な文体および表現を用いて文を作ることができること。
- (3) 授業への出席、授業中の課題作成や発言、自己学習などを通して主体的に授業に参加していると判断できること。

授業計画

- 第1回：イントロダクション（文法・文体）
- 第2回：文体：日本語の文体性（インプットレクチャー）
- 第3回：文体変換：述部と品詞
- 第4回：文体変換：語彙（動詞）
- 第5回：文体変換：語彙（副詞）
- 第6回：自動詞他動詞：ヴォイス（インプットレクチャー）
- 第7回：自動詞他動詞：語彙
- 第8回：自動詞他動詞：拡張構文
- 第9回：自動詞他動詞：総合練習
- 第10回：「は」と「が」（インプットレクチャー）
- 第11回：「は」と「が」：使い分け
- 第12回：ノダ分：（インプットレクチャー）
- 第13回：ノダ文：疑問文と焦点
- 第14回：ノダ文：平叙文とムード

※受講生の日本語能力・到達度・理解度に応じて、補助的・派生的・発展的な内容を追加的に導入することがあるため、授業の進度に変更が生じる場合がある。

授業計画（週形式）

教材・教科書

次のテキストを使用する予定（購入については授業開始の時に指示する）：『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』その他、必要に応じてプリント資料を配布する。つねに日本語辞書を持参することつねに国語辞書を持参すること（電子辞書でもよい。ただし、スマートフォン・携帯電話・iPadなどタブレット端末の使用は教員の指示に従うこと）。

※課題提出や授業連絡にGoogle Classroomを使用するので、受講までにIPCアドレスで登録準備をしておくこと。クラス参加登録の準備ができ次第、Live Campusから履修登録者に周知する。

※LINEオープンチャットを用いてクラス内での情報共有や協働学習を行うことがある。LINEアプリが使えるスマートフォン等を持参すること。

参考図書

『教師と学習者のための日本語文型辞典 / グループ・ジャマシイ編著』『同・ベトナム語版』『同・韓国語版』『同・英語版』

参考URL

<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/opac/rmbook/?lang=0&rmtpe=1&reqCode=list&dptidpl=1&rmkey=51&rminf=%E4%BA%95%E6%9C%AC%20%E4%BA%AE&rmnm=&codeno=7>

授業外の学修、及び必要な学修時間

毎週、各課の宿題や語彙に関する課題などを課す。課題の提出を前提にした反転授業が基本的な授業スタイルになるため、そのための準備として各回1コマ程度の学習が必要である。

（単位制に基づき、少なくとも15時間の授業外学修時間を必要とする）

成績評価の方法

宿題&課題提出・期末平常レポート・予習を含めた授業への主体的参加を評価する平常点の総合評価によって以下の目安にしたがって成績評価を行う。課題提出と授業の主体的参加の重要性は特に高い。

成績評価の基準

- S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
- A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
- B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
- C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
- F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

金曜日10:30～12:00。その他の曜日時間帯も応相談。まず、アポイントをとること。

授業改善・工夫

オンラインサービスを活用し、資料配布・授業連絡・情報共有・課題提出・ディスカッション・成果物のアーカイブなど、能動的活動のための環境を整備する。

留意点・注意事項

この科目は【交換留学生対象科目】である。学類基盤教育【日本語〇】と同じひとつのクラスとして開講する。

教員の実務経験の有無